

宮川直轄河川改修事業

説明資料

平成26年10月30日

国土交通省 中部地方整備局
三重河川国道事務所

目次

1. 事業の概要	
1)流域の概要	1
2)主要洪水	2
3)事業の目的及び計画内容	3
2. 評価の視点	
事業の必要性等に関する視点	
1)事業を巡る社会経済情勢等の変化	4
2)事業の投資効果	5
3)事業の進捗状況	6
3. 県への意見聴取結果	7
4. 対応方針(原案)	7

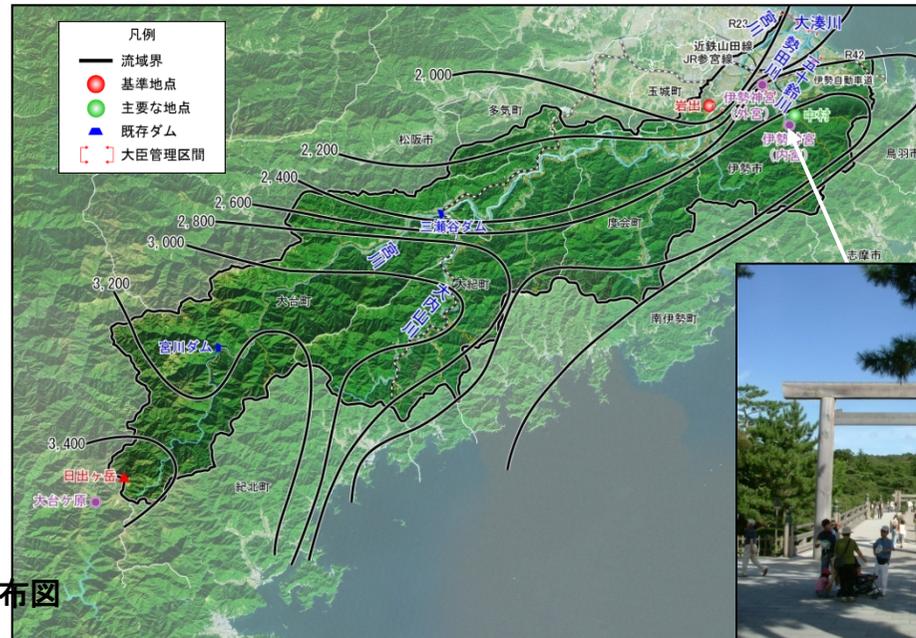
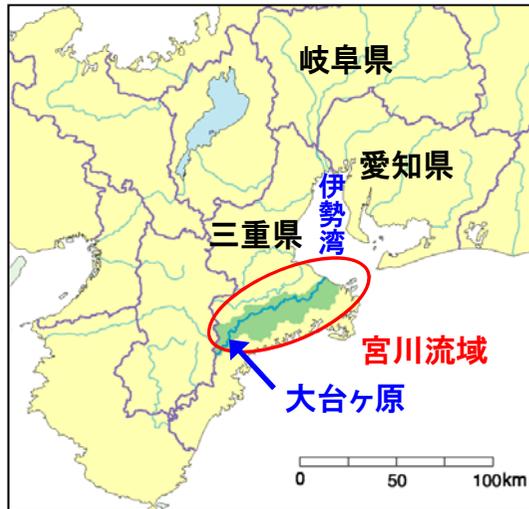
1. 事業の概要

1) 流域の概要

宮川は三重県の南部に位置し、その源を三重県多気郡大台町と奈良県吉野郡上北山村の県境に位置する日出ヶ岳(標高 1,695m)に発し、大内山川等の支川を合わせて伊勢平野に出て、河口付近で大湊川を分派し、その後、伊勢湾に注ぐ、幹川流路延長 91km、流域面積920km² の一級河川です。また、支川五十鈴川は、五十鈴川派川を分派し、河口付近で支川の勢田川・大湊川を合わせ、伊勢湾に注いでいます。

宮川の平均年降水量は源流域や上流域では約2,500mm~3,000mm以上、中流域から下流域で約2,000mm~2,500mmと多く、特に日本屈指の多雨地帯である大台ヶ原を持つ源流域は、古くから全国有数の多雨地帯として知られています。

下流部には、年間平均約800万人(昨年過去最大約1420万人)が訪れる伊勢神宮を抱えています。



伊勢神宮内宮(宇治橋)

項目	諸元
幹川流路延長	91km
流域面積	920km ²
流域関連市	伊勢市、玉城町等
流域内人口	約14万人

流域図及び
年間降雨量分布図

2) 主要洪水

宮川においては、昭和49年7月の台風8号により、勢田川がはん濫し、伊勢市の広域で浸水被害が生じました。近年では平成16年9月の台風21号、平成23年9月台風12号により、伊勢市では床上浸水や路面冠水等の浸水被害が生じました。

主要洪水一覧

発生日月	原因	洪水流量※1 (岩出地点)	浸水面積※2	浸水家屋※2		
				床上	床下	全壊流出
昭和13年8月	低気圧による豪雨	約8,400m ³ /s (推定)	宮川下流部の堤防決壊により、城田村、御菌村、宇治山田市において浸水が発生			
昭和34年9月	伊勢湾台風	約4,700m ³ /s	高潮により海岸堤防が被災し、伊勢市の人家等の被害が激しく、被災者は約9万人			
昭和49年7月	台風8号	約5,200m ³ /s	3,051 ha	3,244棟	10,924棟	1棟
昭和57年8月	台風10号	約6,000m ³ /s	974 ha	453棟	2,059棟	15棟
平成2年9月	台風19号	約6,500m ³ /s	0.5 ha	—	76棟	—
平成6年9月	台風26号	約7,300m ³ /s	104 ha	26棟	36棟	—
平成16年9月	台風21号	約7,800m ³ /s	174 ha	184棟	86棟	33棟
平成23年9月	台風12号	約8,400m ³ /s	316 ha	108棟	82棟	6棟

※1: 流量は氾濫がないとした場合の計算値 ※2: 浸水面積及び被害の出典「水害統計(建設省)」



昭和49年7月洪水
浸水状況(伊勢市駅前)



昭和57年8月洪水
溢水状況(勢田川右岸5.8k付近)



平成16年9月洪水
堤内地浸水(宮川右岸7.4k付近)



平成23年9月洪水
洪水における浸水状況(大倉川流末)

3) 事業の目的及び計画内容

「宮川水系河川整備基本方針(平成19年11月策定)」で定めた目標に向け、段階的かつ着実に整備を進め、災害に対する安全性の向上を図ることとしていますが、現在想定している概ね30年間の主な内容は下記のとおりです。

概ね30年間の主な整備内容(予定)

【洪水対策】

戦後第2位規模の洪水(平成16年9月洪水)に対し、被害の軽減を図るため、段階的に堤防整備・堤防強化、河道整備及び樹木伐採、排水機場の増強等を行います

【高潮対策】

伊勢湾台風相当の高潮に対し、高さ・断面が不足するとともに老朽化が著しい高潮堤防の整備を完了します

【耐震対策】

東南海・南海地震等に対し、河川管理施設の機能維持を図るため、耐震対策を行います

目的	整備内容	
洪水対策	堤防整備・堤防強化 (護岸整備等含む)	約13km
	河道掘削 (樹木伐採含む)	約24万m ³
	排水機場増強	1施設
高潮対策	高潮堤防整備	約0.4km
耐震対策	耐震対策	2施設

※堤防強化には浸透対策、耐震対策を含む

※現在、河川整備計画策定中であり、上記の整備内容及び整備区間については、今後変更されることがあります。



2. 評価の視点

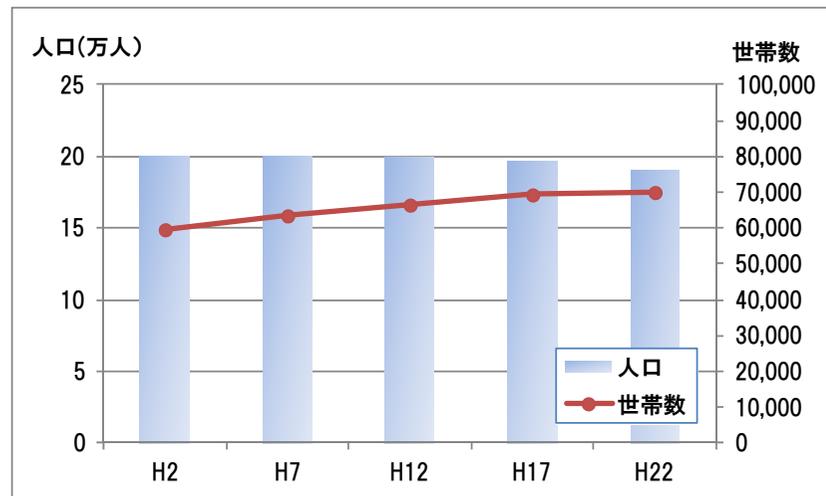
事業の必要性等に関する視点

1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

近年、宮川流域市町村の人口・世帯数に大きな変化は見られません。

また伊勢神宮をはじめとした歴史的、文化的資産が多く存在し、今後も観光地として期待されている地域です。

流域市町村の人口と世帯数



出典;国勢調査

流域市町村

- ・伊勢市(旧二見町、旧小俣町、旧御薮村含む)
- ・玉城町
- ・多気町(旧勢和村含む)
- ・度会町
- ・大紀町(旧大宮町、旧紀勢町、旧大内山村)
- ・大台町(旧宮川村含む)

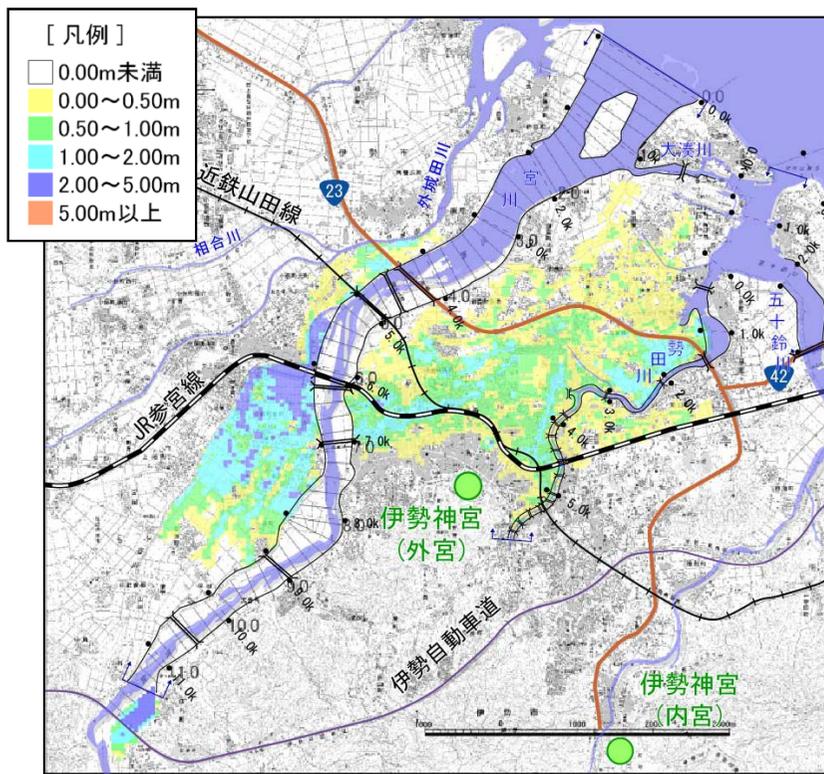


伊勢神宮内宮
(宇治橋)

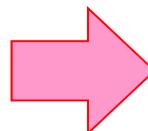
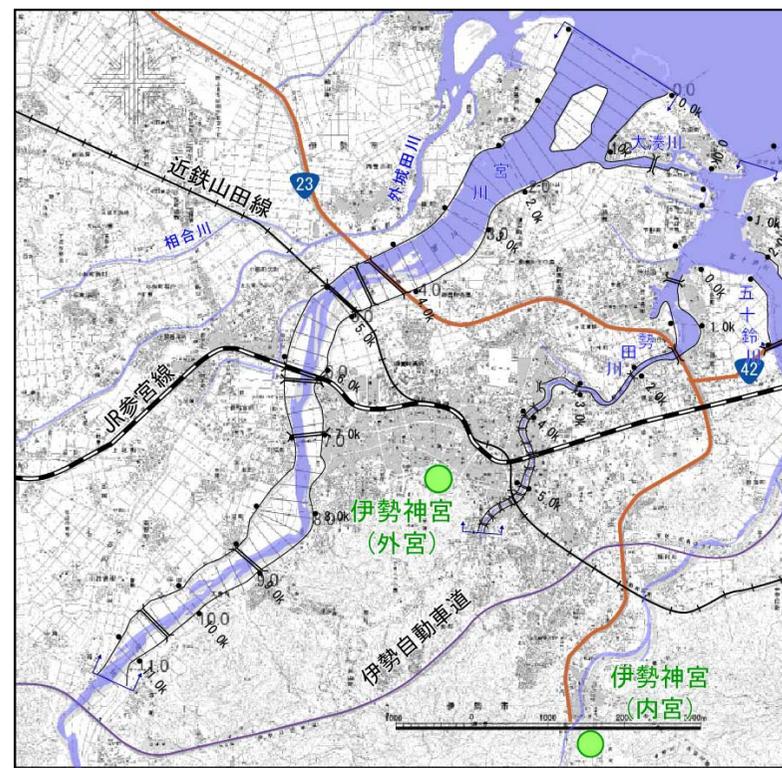
2) 事業の投資効果

現況河道において、目標とする規模の洪水(平成16年9月洪水)が発生し、宮川が氾濫した場合に想定される被害は、浸水面積約1,300ha、浸水人口約32,200人、浸水家屋数約23,200世帯であり、整備を実施することで氾濫被害が解消します。

事業実施前

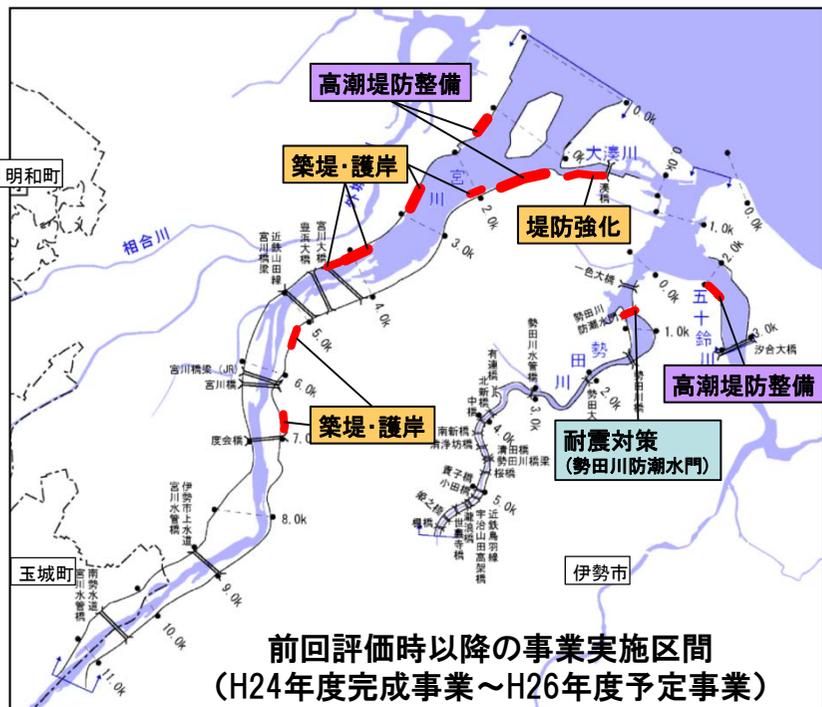


事業実施後



3) 事業進捗状況

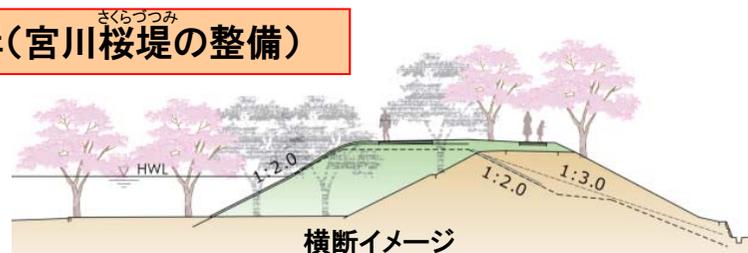
前回評価時(平成23年度)以降、主に高潮堤防及び築堤護岸の整備を実施しています。



高潮堤防整備



築堤護岸(宮川桜堤の整備)



事業の実施状況

目的	整備項目	全体 (A)	H26年度末完成(予定)(B)	整備率 (B/A)
洪水対策	堤防整備・堤防強化 (護岸整備等含む)	約13km	約1.4km	13%
	河道掘削 (樹木伐採含む)	約24万m ³	約0万m ³	0%
	排水機場増強	1施設	0施設	0%
高潮対策	高潮堤防整備	約0.4km	約0.4km	100%
地震対策	耐震対策	2施設	1施設	50%



3. 県への意見聴取結果

三重県

本事業は、近年、床上浸水が発生した宮川中～下流域の治水安全度向上及び、南海トラフ地震による地震・津波被害を軽減するために重要な事業です。今後も引き続き、本県と十分な調整をしていただき、河川整備計画の早期策定と効率的な事業執行により、更なるコスト縮減をお願いします。

4. 対応方針（原案）

以上のことから、宮川水系河川整備基本方針に基づく、河川改修事業を継続します。